

WebsiTV

webブラウジングの新たな形

1.背景

近年、Webブラウジングをする際のスタイルが数年前と比べて大きく変わりだしている。以前は机の前に座り、デスクトップコンピュータを操作し、Webブラウジングすることが普通であった。しかし最近では、家庭内に小さくて軽いネットブックと呼ばれる小型のインターネット専用ラップトップコンピュータが普及し、wifi環境も整い出しているため、家の中であれば、どこに居てもインターネットに接続しWebブラウジングすることが出来る環境が構築されている。また、スマートフォンやフルブラウザ対応の携帯電話によって、外出していてもインターネットにつながる事が出来るようになってきている。そのため、電話やネットブックを家の中ですら、持ち歩くことが当たり前になってきている。しかし、常に手の届くところ、つまり、視界に入る場所に置いてあるにもかかわらず、食事をしていたり、本を読んでいたりと、ネットブックが近くにあったとしても目を向けられる可能性は低い。これは、Webブラウジングがユーザの操作によってのみ可能だということを暗に示している。また、ネットブックにWebサイトを表示していたとしても、集中して文字を読まないで内容を理解できないので、軽く眺める程度では到底理解できないという問題がある。

また一方で、Web上に情報が増え続けているという問題もある。これは、日々更新されていく情報や新たに作られる情報の増える速度が速く、自分の興味のある情報や有益である可能性を持つ情報ですら簡単に取得することができず消費できないという問題である。

そこで私は、これら二つの『ノートパソコンの放置問題』と『Web上に増え続ける情報問題』を組み合わせることで、それぞれの問題を解決することが出来るのではないかと考えた。

2.目的

本プロジェクトの目的は、二つの問題を組み合わせ、それぞれの問題を解決するためのシステムを開発することである。そこで今回はWeb上の情報であるRSS (Blog等) に着目し、ユーザの操作なしにRSSを閲覧することが出来、軽く眺める程度でその内容を理解することが出来るWebブラウジングの新しい形を創りだすことを目的とした。

このシステムがあることにより、普段行っているWebブラウジングのルーチンワークを自動化し、ふとした時に眺めることにより情報を収集することが可能になる。例えば、朝起きて、Webサイトで天気予報を調べ、前日起こったニュースを確認し、友人のblogが更新されているか確認するなどの、一連の行動を自動化することにより、朝食を食べながら軽く眺めるだけですべてのことを確認することが出来る。

3.開発の内容

本プロジェクトでは、Web上の情報（BlogなどのRSS）を登録し、その登録されたBlogをテレビのように受動的に見ることが出来るシステムを目指し、WebsiTVというWebアプリケーションを開発した。

このシステムの使い方として、まず初めに興味のあるBlogのRSSURLをWeb上から一個～複数個取得する。次に、それらのURLをWebsiTVに登録すると自動的に番組と呼ばれるRSSの集合が作成される。最後に番組選択メニュー画面（図1）で自分で作った番組サムネイルを選択することで、受動的に番組を閲覧することが出来る。また、その他にも誰かが作った番組を単純に閲覧することも可能である。

WebsiTVは、複数個のBlogを集めたものを番組と呼び、それらの集合をテキストニュースのような形に整形し、連続的に表示し続けるWebアプリケーションである。また、単純にBlogをテキストニュースのような形に整形するだけでなく、ユーザが軽く見た程度で内容を理解できやすいように文章を加工し、普段のブラウジングでは取得できなかったような新たな情報を取得することを可能にする。ユーザは、このシステムをスクリーンセーバーのように表示しておくことで、作業の合間などの隙間時間利用して、Blog内の情報とそのBlogにまつわる新たな情報を受動に取得することができる。

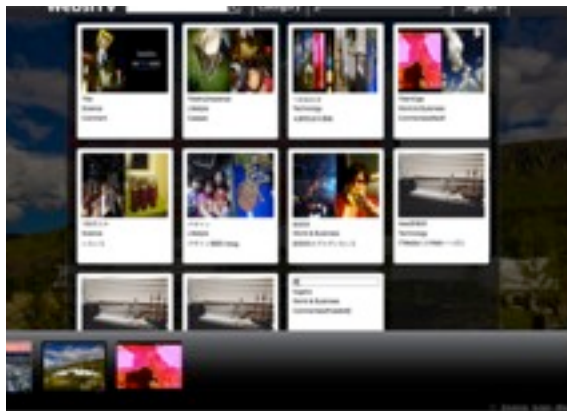


図1：番組選択メニューと文章加工

4.従来の技術（または機能）との相違

WebsiTVは、これまでのRSSReaderとは大きく違い、単純に情報を提供するのではなく自動でBlogが切り替わり、様々な加工が加えられた状態でユーザに情報を提供する。さらに、ネットワーク上に番組という形で共有されていることにより、RSSReaderよりも容易に他人が作った番組（Blogの集合）を閲覧することが出来るようになっている。

また、feed-tv (<http://feed-tv.com/>) という、RSSが配信されているWebページをそのまま表示するサービスとは違い、WebsiTVはユーザがBlogの内容を簡単に理解できる補助を行ない、情報を提供することで、軽く眺める程度でWebサイトの内容を理解することが出来る用になっている。

memorium (<http://www.persistent.org/memorium.html>) というアプリケーションでは、眺めて情報を取得するというアプローチは同じだが、memoriumで得られる情報は、検索サイトの検索結果に表示される要約を表示するのみで、WebsiTVと比べて情報量が圧倒的に少ない。

5.期待される効果

本システムを使用することで期待される効果として、これまでユーザが操作しなければ出来なかったWebブラウジングを、自動的に行うことが出来るようになり、眺めるだけで内容を簡単に理解できるようになる。そういった意味で本システムはWebブラウジングの新しい形であると言えるのではないだろうか。今後タブレットPCなどの新しいデバイスが開発されていくと考えると、本システムのような眺めるためのアプリケーションは増えていくと考えられる。また、ソーシャルブックマークなどの連携により、タグの名前がついた番組を作ることによって、インターネット上で何が流行っているのか、と言うことを確認することが出来る。さらに、普段から購読しているblogなどで番組を作っておくと、ふとした時に眺めることにより、blogをチェックすることが出来る。つまり、このシステムがあることにより、ちょっとした空き時間を有効に活用することが出来るようになる。将来的には自分で作った番組をオンラインで公開できるようにすることによって、WebsiTVがCGMのようなメディアになっていくと考えられる。また、WebsiTVを私が思ってもいなかったような使われ方が生まれてくると考えている。例えば、色々な食べ物の広告だけを集めた番組を作り、通信販売の番組のようなものを作るユーザが現れたり、Youtubeのような動画サイトで動画だけを集めたテレビ番組のような番組を作るユーザも現れるであろう。このようにWebsiTVはWebサイトにこれまでには無かったたくさんのエッセンスを加えることが出来、新たな価値を生み出すことが出来ると考えている。

WebsiTVは今後世の中に取りって重要なメディアになると確信している。

6.普及（または活用）の見通し

開発成果普及のために、WISSなどのソフトウェア系の学会や、インタラクショナル系、インタフェース系の学会に参加し、発表することで様々な人に宣伝することが出来ると考えている。今後Blogだけではなく様々なWebサイトや、動画サイトに対応することで、WebsiTVがCGMのようなメディアになっていくと考えられる。例えば、ソーシャルブックマークなどと連携させ、タグの名前がついた番組をすることによって、インターネット上で何が流行っているのか、と行うことを確認することが出来るようになったり、色々な食べ物の広告だけを集めた番組を作り、通信販売の番組のようなものを作るユーザが現れたり、Youtubeのような動画サイトで動画だけを集めたテレビ番組のような番組を作るユーザも現れると考える。今後タブレットPCなどの新しいデバイスが開発されていくと考えると、本システムのような眺めるためのアプリケーションは増えていくと考えられる。その中でもWebsiTVは今後世の中に取って重要なメディアになると考える。

7.クリエイター名（所属）

代蔵巧（公立はこだて未来大学大学院 システム情報科学研究科）

株式会社ピコ・ナレッジ（プロジェクト管理組織）

（参考）関連URL

本プロジェクトで開発したシステムの公開予定URLである。

<http://websityv.appspot.com/>